

令和4年度指導教諭の紹介

教科 (科目) 外国語 (英語)	1 授業の特徴 Backward Design (逆向き設計) を意識して授業を構想しています。授業 (または単元) 内で行う様々な活動を最終の言語活動に向けて段階的に構成しながら、目的を明確にした活動を行うことを通して、生徒が英語を身につける (英語を使うことができる) 授業を行うことを心がけています。
名前 (ふりがな) 麻生 朋成 (あそう ともなり)	2 教科指導に関して情報提供や協議が可能な事項 ① 目的を明確にした言語活動に関する指導のポイント ② 単元指導計画 (Backward Design) の立て方 ③ 学習評価の方法
勤務校 (問い合わせ先)	3 研修講演等が可能なテーマ 目的を明確にした言語活動のあり方について
大分県立 佐伯鶴城高等学校 住所： 〒876-0848 佐伯市城下東町 7番1号 TEL：0972-22-3101 FAX：0972-23-2115	4 活動実績 平成30年度 大分県英語担当教員指導力向上研修 講師 令和元年度 英語教育推進リーダー認証 令和元年度 学ぶ力向上ゼミ (1年生対象) 講師 令和2年度 学ぶ力向上ゼミ (2年生対象) 講師
授業公開の日程 3年 コミュニケーション 英語Ⅲ 普通科 国理コース 水曜3限(クラス固定) 私理コース 金曜3限(クラス固定) 英語表現Ⅱ 普通科 国文コース 月曜1限(クラス固定) 火曜3限(クラス固定)	5 自己紹介、プロフィールなど 指導教諭として6年目を迎えました。これまでは、英語の教師として、生徒の英語学習 (言語習得) のために、自分にできること (すべきこと) を考えながら日々の教育活動に取り組んできました。「英語が苦手!」「英語は難しい!」という生徒の声を聞く度に、教師の指導のあり方のみを見直してきました。授業は教師が行い、いかに指導技術を改善すべきか、ということばかり考えてきました。授業改善を行う中で、授業は教師と生徒でつくるものであるという視点を学びました。以来、生徒の視点から自分の授業を分析・改善するようにしています。生徒にとって、学校生活の中で多くの時間を占める授業を、何とか充実したものにするためにも、この視点で授業改善を続けていきます。生徒の成長や学習者としての自立に向けて、英語の教師として自分にできること (すべきこと) を考えながら、日々の授業を実践しています。
	6 学校紹介 佐伯鶴城高校は、様々な分野においてトップで活躍する人材を多く輩出しており、文武両道を標榜とする伝統校です。難関大学への進学から就職希望まで、幅広いニーズを持った生徒たちが学んでいます。 平成29年度からは、SSHに指定され、『地域の核となり持続可能な社会の担い手としてグローバルに活躍する科学技術系人材の育成』を目的として、様々な研究を進めています。学校設定教科「創生探究」&「RIAS」で全校生徒が、グループ毎に研究を実施しています。 また、部活動加入率も約90%と高く、部活動や学校行事を通して、地域に貢献できる人材育成を目指しています。
	7 学校や関係HPのリンクなどアドレス 佐伯鶴城高校 HP http://kou.oita-ed.jp/saikikakujou/